

# RACE REPORT

SUPER FORMULA 2021 — P.MU/CERUMO・INGING Race Report

ROUND.

5

ツインリンクもてぎ

予選

8月28日(土)

天候：晴れ コース状況：ドライ

前戦の菅生ラウンドから早くも2か月経過。少しインターバルの長かったレースウィークを迎え、モータースポーツもシーズン後半戦に入る。サーキットでは、コロナ禍での状況を鑑み、パドックとグラウンドスタンド側の動線は、交わらないよう往来は禁止とするなど、さまざまな配慮がなされた。

#38 坪井 翔 予選 11位

#39 阪口 晴南 予選 8位



この2か月のインターバルの間、チームは普段からやっているマシンメンテナンスに加え、ピット作業で使用するチームが独自に制作しているジャッキをアップデート。常に勝つ事に重きをおきつつも、後半戦に向けし休養を取るなどして、このラウンドに備えた。

昨日の搬入日から、最高気温は35度に届くほどの酷暑。吹き出す汗を拭きながら設営に勤しむスタッフは、暑さの中、手際よく作業を進め、早々にサーキットを後にした。

迎えた予選日、今日も朝からうだるような暑さ。ピットの中は、フリー走行が始まる午前8時30分の時点で、35度を超えていた。1時間半に亘る走行セッションは、クルマの感触は悪くなかったと感じた坪井と、走り出しから難しく、最後にニュータイヤを入れてみたものの状況は大きく変わらなかった阪口。それぞれ、順位としては、坪井13番手。阪口12番手だったが、午後に向けてセットアップを大きく変え予選に備えた。

## ○公式予選/Q1

午後2時35分から始まった公式予選Q1、Q2は、コース上の混雑を避け充分にアタック出来るよう今回も2グループに分けられ、阪口がA、坪井がBグループでアタックした。それぞれ10分間のセッションの後、各グループ7台ずつで合計14台がQ2へ進出となる。

-Aグループ (14:35-14:45)

Aグループ9台、阪口からQ1がスタート。ユーズドタイヤでコンディションを確認したのち、ニュータイヤへ履き替えアタック。計測4周目、1分32秒793をマーク。4番手でQ2へ進出した。

-Bグループ (14:50-15:00)

坪井が出走。10台のアタック。1分32秒547で3番手となり、2台揃ってQ2へ進出した。



## ○公式予選/Q2

7台が7分間アタックする中、各グループ4台がQ3へ進出する。

## -Aグループ (15:10 -15:17)

阪口は計測3周目、1分32秒406の4番手でQ3へ進出。

## -Bグループ (15:22-15:29)

坪井は、1分31秒997で6番手。残念ながらQ3へ進出ならなかった。

## ○公式予選/Q3 (15:39-15:46) 気温35度、路面温度43度

8名の予選ファイナリストに残った阪口。7分間のアタックに挑む。

計測3周目で、1分31秒937。8番グリッドを獲得した。

激戦に次ぐ激戦の公式予選。僅差の戦いが毎戦繰り広げられている。今季は予選よりも決勝でドロップしてしまう傾向があり、このもてぎでそれを食い止めたい。

明日の決勝は、35周(70分)で競われる。



## ドライバー #38 坪井 翔

「朝の走行を考えたらトップと差はありますが、クルマのフィーリングはとても良かったです。Q2で落ちましたが、良いアタックも出来たし、朝の走行であったタイム差も縮まり乗り易いクルマになりました。路面コンディションが良かった時に、タイムを上げることがなかなか出来なかったのですが、だいぶクリア出来、良い手応えを感じたので、結果以上に満足できました。今のクルマをベースにこれをステップアップして行ければ、トップグループに追いつけるのかなと思いました。明日は、予選で感じた手応えを活かせるレースにしたいです」

プアアップして行ければ、トップグループに追いつけるのかなと思いました。明日は、予選で感じた手応えを活かせるレースにしたいです」

## ドライバー #39 阪口 晴南

「朝の走行から大きくセッティングを変え予選に備えましたが、それが結果的に良い方向へと行きました。Q3へ進出出来て良かったです。グループ分けに関しては、もちろん路面コンディションが違うので一概に言えませんが、自分たちの方が少し良かったのかもしれません。思いのほか、クルマのポテンシャル以上の良い結果になったと感じます。今季は決勝では、順位を落としてしまう結果が多いですが、今回はそのような雰囲気はないと思っています。決勝のペースやピットのタイミングなどを考えて、大逆転などよりも着実にポイントを獲得して行きたいと思っています」



「朝の走行から大きくセッティングを変え予選に備えましたが、それが結果的に良い方向へと行きました。Q3へ進出出来て良かったです。グループ分けに関しては、もちろん路面コンディションが違うので一概に言えませんが、自分たちの方が少し良かったのかもしれません。思いのほか、クルマのポテンシャル以上の良い結果になったと感じます。今季は決勝では、順位を落としてしまう結果が多いですが、今回はそのような雰囲気はないと思っています。決勝のペースやピットのタイミングなどを考えて、大逆転などよりも着実にポイントを獲得して行きたいと思っています」

## 監督 立川 祐路

「朝のフリー走行は、あまり状況が良くなく、予選で調子は上向いたのですが、トップ集団に追いつくチカラはちょっとなかったですね。朝のことを考えれば、Q3へ1台進めて、もう一台は惜しいところでしたが、まずまずの結果。このところ決勝で苦戦しているので、今回は前を追えるレースにしたいですね。頑張ります」

